

健康登山63:自然歩道33 (亀山駅～椿大神社)

コース	亀山駅 池山西バス停 2.0km/43 坂本棚田展望台 1.7km/31 林道分岐 0.6km/7 墓地 1.1km/16 茶畑分岐 0.8m/22 八島川 2.3/39 遍照寺 0.7km/14 桃林寺 1.8m/40 椿大神社 0.6km/12 神社前バス停 加佐登駅		
水平距離	11.6km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	11.2km		
累計高低差	登り541m、下り472m		
標準歩行時間	3:44		
実績歩行時間	3:36		



山行報告

山行日 2011・2・4 (金) 天候 晴 参加者 5名

亀山駅7:45 池山西バス停8:20 坂本棚田展望台9:07 林道分岐9:34 墓地9:48
行動 茶畑道分岐10:01 八島川10:32 遍照寺11:07 桃林寺11:24~11:59 椿大神社参拝
と昼食12:26~14:00 椿大神社前バス停14:14 加佐登駅14:56 京都駅17:27

記録

ホテルで朝食を済ませ、亀山駅7:45発のコミュニティバスで池山西バス停へ向かった。一日行程としては宮妻口まで行くのが適当だが交通の便を考えて椿大神社まで歩き、そこから毎時1本のバスで加佐登駅へ行くことにした。歩行距離は12kmほどなので椿大神社には昼ごろに着き、初詣を兼ねてお参りをしようという計画である。

出発点の池山西バス停から10分余り歩くと新名神高架下で石水溪からの自然歩道に合流する。ここは仙ヶ岳の登山口にもなっている。仙ヶ岳道との分岐を過ぎ日本の棚田百選に選ばれている坂本棚田のなだらかな道を登り、最上部の展望台に登った。そこから坂本集落を抜けると、すぐに野登山への登山口があり徒歩100分と書かれている。またこの道は鶏足山野登寺の表参道にもなっている。茶畑と杉林の自然歩道を進むと、標高350mのところから野登山へ向かう林道があり、本日の最高地点でもある。ここから野登山南尾根を登る登山道もある。

下り道にかかり墓地を過ぎると、間もなく庄内白石鉱山の工場群を通りぬける。道なりに下り道標を見落とさないように左の小道に入ると広大な茶畑が広がる。茶畑をジグザグに登り、スギ林を抜けて北上すると御幣川を渡り、小岐須集落になる。集落に入るとすぐに遍照寺があり、さらに進むと桃林寺がある。桃林寺の前には自然歩道の路傍休憩所が設けられている。茶畑越しに伊勢湾が望める雰囲気の良いところでのんびりと大休止をした。

1km余り歩いて12:26に目的地の椿大神社に着いた。参拝をしたあと、椿会館で昼食をしながらバス発車時間の14:14まで歓談をして過ごした。この辺りには仙ヶ岳、野登山、入道ヶ岳、雲母岳など周辺の山がたくさんあり選択に迷う。椿大神社の奥の宮が入道ヶ岳なのでアセビの季節に登りたいという話があった。

自然歩道 (亀山駅～坂本棚田～椿大神社)



池山西バス停
を出発
8:28



坂本の棚田
9:06



野登寺への
林道入口
9:34



茶畑道分岐
10:01



杉林を歩く
間伐材多数
10:34



小岐須町遍照寺
11:08



茶畑を歩く
11:23



桃林寺
路傍休憩所
11:25



椿大神社
12:25



椿大神社
バス停
14:02

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：亀山駅～坂本棚田～桃林寺～椿大神社）

参考資料 ホームページ他より

坂本の棚田：亀山市安坂山町坂本。平成 11 年「日本の棚田百選」に選ばれています。

戦国時代に開墾されたとか、棚田法面は石積が特徴だそうです。

集落の坂本神社に展望台があり棚田が一望でき、23ha、440 枚の棚田の中に遊歩道が通っています。標高 170～320mの斜面。入口に駐車場、トイレもあります。

^{のほりやま}野登山登山口：東海自然歩道の坂本集落北の外れ棚田の脇に登山口があります。

坂本から見ると棚田と野登山が一望出来ます。

野登山(双耳峰)往復 4 時間 30 分。西峰 847m。東峰△851, 6m。

仙ヶ岳(961m)への縦走道もあります。

麓に伊勢西国三十三所霊場第二十三番の『鶏足山野登寺(御室派)』があります。

本尊十一面千手観音菩薩。延喜 7 年(907)醍醐天皇の勅願で伽藍着手された。

遍照寺：海拔 200mにあり伊勢湾が望めます。しだれ桜で有名です。

本堂は旧亀山城の「二の丸御殿玄関」を移築したものです。

本尊は鎌倉時代の木阿弥陀如来立像で県重文です。

桃林寺：臨済宗東福寺派。本尊：釈迦如来。養和元年(1181)慈円/(諡号)慈鎮の開山。

^{たひらのすけもり}平資盛の道場で、七堂伽藍の大寺院(天台宗)であったが兵火などで焼失した。慶長年間(1596～1615)に再興された禅寺。永享 8 年(1436)銘の銅鐸(県最古)あり。

(鳥羽天皇第七皇子で青蓮院第 2 世門主^{かくかいほっしんのう}覚快法親王の弟子が天台坐主慈円)遍照寺の近くにあり、此処からも伊勢湾が望め、庭園とサクラと桃の名所です。予約で精進料理がいただけまし。

^{つばきおおかみのやしろ}椿大神社：全国二千余社の猿田彦神を祀る神社の本宮です。(猿田彦神社参照)

主祭神：猿田彦大神(みちびきの祖神)御神徳：教導、道開き

相殿：瓊々杵尊、栲幡干々姫命(ニギノミコトの母神)

配祀：天之鈿女命、木花咲耶姫命

前座：行満大明神。

(猿田彦神の末裔で修験道の元祖とされ、役行者を導かれた)

由来：鈴鹿山系中央の高山(入道嶽 906m山頂に奥社あり)と

^{ひきやま}短山(椿ヶ嶽 450m)を天然の社として太古の神代より祭祀されていた。

猿田彦大神の御神霊を、垂仁天皇 27 年(B C 3)倭姫命の御神託により、

境内にある土公神陵の前方「御船磐座」^{みふね}辺りに社殿を造営奉斎された日本最古の神社といわれる。

仁徳天皇の御代に霊夢により「椿」の字を持って社名とされた。

【猿田彦神の亦の名】

『^{おきたま}輿玉の神』二見浦の夫婦岩沖合 700m 下に鎮まる。

「輿玉」とは魂を導き甦らせる(魂を興す意)神威により輿玉の神と称せられる。(先達、延命長寿、縁結び、安産)

『^{ちまた}衢の神 / ^{さえの}塞神 / ^{ちまたの}岐神 / ^{ちまたの}道祖の神 / ^{ちまたの}道別大明神』

道の分岐点を守り邪霊の侵入を阻止、旅人の安全を守護する神。

天孫降臨のさい、天と地の分岐「^{あめ}天の八衢^{やちまた}」で待ち迎え、^{みちひらき}啓行され、天孫を高千穂へと導かれ大功を果たされた。

(家内安全、無病息災、交通安全、警備、商工業隆昌発展、進学、就職)

『船玉の神』『渡しの神』。後世「船玉神」(船舶そのものの霊)になる。

(航海、航空、旅行安全)

『白髭大明神(比良明神)』滋賀県の白髭神社は全国白髭神社の総本社です。

『山の神』金属重要が高まり探鉱のため山奥深くは行って行った渡来系の技術集団が祀った神。渡来系の人には動物の名を人に付けた。

「山の神」日吉大神の使いは猿、「日の神」伊勢神宮の使いも猿。

『^{かのえさる}庚申神』十干十二支の庚申日に祈り、猿田彦神(神道)、青面金剛(仏教)の軸を掛けてこの日は寝ずに夜を明かし談笑し、萬福招来を祈願します。

人間の体の中にある「^{さんじ}三尺の虫」がこの夜人が寝ている間に、体から抜け出しその人の罪を天帝に告げに行きます。天帝はその罪状に応じて人の命を縮めるといいます。

三尺の虫は猿を怖がり逃げ、故に赤い「くくり猿」を吊るします。

庚申の「^{さる}申」から「猿」は庚申の神使いとされた。

比叡山の僧などが関わり日吉大社の神使「猿」の影響もあって、神道の庚申の主神は「申(猿)」から猿田彦神とされたともいわれる。

*八坂庚申、山の内庚申、粟田口庚申を「京都三庚申」といいます。

『土公神』境内にある^{たかやま とうこうじん}高山土公神陵。猿田彦神の御陵と言われています。

前方後円墳周囲 300m、幅 50m、高さ 20m。

『佐田彦大神』伏見稲荷大社本殿中社 北座 にも祀られています

『^{ちかつ}千勝大神』茨城県つくば市に総本社があります

『^{おおとこぬしのかみ}大地主神』国津神で天孫降臨以前に原住し天孫降臨後、猿田彦神は伊勢を本拠に国土開発された。

猿田彦神社：伊勢内宮近くにあります。(伊勢市宇治蒲田)

猿田彦は日向の高千穂に天孫を導かれた後、伊勢を本拠地に国土開発を指導された。垂仁天皇の御代に末裔の^{おおたのみこと}大田命が倭姫命を先導して五十鈴川の川上一帯を献上伊勢神宮創建に尽くされた。

直径子孫は宇治土公(うじのつちぎみ)称し伊勢神宮に代々玉串大内人を奉職し、邸宅内に屋敷神として祖神の猿田彦を祀っていました。

明治に入って神官の世襲制度が廃止され屋敷神を改め猿田彦神社とされた。

*「玉串大内人」齋王、勅使が皇大神宮に参拝するとき玉串を差し出す役。

*椿大神社の宮司山本家も直系とされ、猿田彦姓を襲名していたが、崇神天皇のころ神名使用を禁じられ「行満」と称して山本家の祖先神になったという。

(どちらの神社も直系を名乗っておられます)

別宮椿岸神社：祭神：天之鈿女命/記、(天之宇受売命/紀)「鎮魂の神」「芸能の祖神」

天孫一行が日向の高千穂の峰に導き終えられた猿田彦神は、一行の神の天之鈿女命と夫婦の契りを結ばれ、伊勢鈴鹿の里に帰られ鎮祭された。

(芸事、縁結び、夫婦円満)

「招福の玉」「袂へ給へ、清め給へ、六根清浄」と三度唱えて祈ると叶う。

「かなえ滝」滝の水を蛙(置物)にかける。猿田彦神のお使いとされる。

二見輿玉神社では御神徳を受けた人が神社の境内にカエルの塑像を献納する。このため無数のカエルが並んでいます。お守りもカエをモチーフにしたいます。(カエル=帰る、返る、の掛け詞)

蛙は変幻自在の象徴。

噂では滝の写真を待ち受け画面にすると叶う。

上流は金龍明神の滝水です。

金龍明神の滝：椿大神社本殿右横にあします。

後方の神山、入道嶽を源とした大明神川の水は御神水とされ昔より万病に効く薬水とされています。

御船磐座：謡曲「鈿女」に謡いこまれる神代の神蹟。

瓊瓊杵尊一行の御船が此処に繋がれ、この地より九州に先導されたという。

鈴松庵：茶室。(一般開放、お茶 800 円)椿大神社参道の右の奥に有ります。

松下幸之助氏が茶道の発展を祈念して日本庭園と共に寄進された。

行満堂：行満大明神を祀る。(椿大神社宮司の祖)

延命地藏：首から上の病に靈験あらたかとか。参道入り口右側。

獅子堂：聖武天皇の祈願により奉納された獅子頭に由来して名付けられた。
普段は交通祈禱所。

^{つばき}**椿** (海柘榴)：日本固有の花木。花期は冬から春。春の季語。^{ちんじゆ}椿寿/椿齡 = 長寿
木(氣)に春。地上の気を司る言靈。靈力あり神聖な樹木とされた。
^{つば}^き唾の樹(シーボルト訳)。椿は、唾(つば、^{つば}唾吐く = つばき)に由来するという
説もある。唾(つば)は殺菌、抗菌作用もあり、「記紀神話」の中で唾の靈力や
呪力も多く見られ、信じられていました。